作家　角川いつか

「ゼッタイ、必ず、大丈夫！」ポジティブであり続けるココロの置き所

時代も人の心もどんどん変化していく中で

昆吉則　前号で坂上隆さんのルポを書いていただきました。農業や農業経営に関して先入観を持っていないことに期待してのことでした。でも、案外すんなりと書いておられました。

角川いつか　坂上さんにお目にかかり、お話をうかがっていて、とくに違和感を感じることはありませんでした。確かに、農業というジャンルは初めてですが、坂上さんに関しては、これまで様々な業界の力強い経営者の方に共通するものを感じました。むしろ、原稿にも書きましたけれど「この人といたら安心」と女性にも従業員にも思わせてくれるような頼もしさ。それって、男としても経営者としても一番大事な部分だと思うのです。彼が今の農業界で１００haの経営を目指すとおっしゃることとか、その戦略を着々とたてていること。昆さんに解説して頂いて、どれだけ先を行っているのかを理解したのですが、私には坂上さんなら当然そのくらいのこと考えるだろうなって、思えた。むしろ、昆さんの方がこれまでにこだわり過ぎているのではないかしら？

昆　悔しいけど図星だね。この雑誌は、農業を政治や政策や文化の話しだけでなく、あたりまえの商売の話として語ろうよ。その先にこそ、様々なことがあるのだからって言い続けてきた。いわば抵抗勢力にけんかを吹っかけるように。でも、いつの間にか時代は変わって、僕なんかが言って来たことを越えるような若い人たちの時代になってきている。

　そういえば、読者の大方も食傷気味だと思うけど、農家にお嫁さんが来ないとか、農業はもうからないなんてことを言う人がいる。陳腐な質問だけど、そんなこと評論してくれません。

不安に駆られている時代だから農業が注目される

いつか　あまりそういうことを真剣に考えたことありませんが（笑）、たとえば、若い女性たちが農業に対して持つイメージも、時代とともに変化しているのではないかしら。でも、私たちの世代には「魚は切り身で泳いでいる」と思っている困った人もいるくらいで（笑）、それに、農業の現場へ行くチャンスなんてなかなかありませんよね。だから、知らないのです。農業や農家がどう見られるかを気にされるより、農業にかかわっておいでの方が、女性だとか、都会の人だとかということへの先入観を捨てることの方が先ではないでしょうか。先入観無しに受け入れてくだされば……。そうすれば、よく言われるお嫁さんの問題も、ビジネスももっと開けていくのでは。

昆　ウム。

いつか　私だって、ホワイトアスパラは水の中で育つのかと思ってた（笑）。フランス人のアスパラ農家の息子に「白は土の中で太陽に当てずに、緑は土の上、顔を出させて収穫する」のだと聞いて、そうなんだって感激したくらいですよ。

昆　農家でも知らんヤツいるよ（笑

角川いつか

■プロフィール（かどかわ・いつか）

生粋の江戸っ子。読者モデルを経て、渡米。帰国後、コピーライター、プランナーとして活躍。取材などで35カ国以上を巡り、人脈を広げる。経営者の取材には定評がある。2003年作家デビュー。その後１年間に５冊の著作を刊行。『成功する男はみな、非情である。』は、ビジネス書のベストセラー入りを果たし、海外でも翻訳出版された。日本ペンクラブ会員。日本アカデミー賞協会会員。日本旅行作家協会会員。

著書：『別れたほうがイイ男手放してはいけないイイ男』（PHP研究所）、『成功する男はみな、非情である。』（PHP研究所）ほか。

公式HP　http://www.itsuka-k.com/

公式ブログ http://itsuka-k.cocolog-nifty.com/

い）。

いつか　マスコミも農業も、みな言い古された同じことを言っているにすぎない、ということはないでしょうか。若い女性たちにしても、今は、皆、不安に駆られている時代だと思います。私もアレルギーなのですが、そうなって、初めて食べ物に気を使い出す。それが産地や生産者へのこだわりになる。それに、人間とは環境に左右される社会的生き物だと思うので、食育とかロハスなんて言葉が流行ってなおさら影響を受けているんです。そんな若い女性にとって、きちんとしたたべものというのは切実で、肝心なことになっている。昔、流行り言葉になった三高なんて、もう完全に死語。良い学校を出て、良い会社に行く。女性は高学歴の男と結婚すれば安泰という考えは、もうありえない。最近ＴＶで観た話ですが、農村青年といかにも都会風の女性がお見合いをするような番組の中で、「結婚するのにきちんとしたものを食べる環境にあることが大事。それに子どもを作ること考えたら、農業も農村も魅力的」と女性が話していた。彼女たちはしっかりと環境をセレクトしているのです。そういう意識が広がっているのも事実ですよ。私の体験でも、ＯＬの座談会の司会をやると、田舎に憧れる人はたしかに多い。おしゃれな服を着て、きれいなマンションに住み、でもコンビニ弁当やカップラーメンを食べてるなんて、昔はそれでも良いと思っていた人も、変ってきているのではないでしょうか。まだイメージ先行かもしれないけれど。もっとも、さっきのＴＶで、ナガイモが美容に良いと聞いた女性が、その青年に「エステに行くより安上がりだ！」なんて言っていたけど（笑）、それも案外、本音かも。「だめなら、またやりなおせばいい」というのも今の女性。女は情緒的と言われますけど、実は男より女の方が現実的というか実際的、実利を追い求めるものかもしれませんね。一生骨を埋める気はないとも思っているのかもしれません。

昆　そんな精神のフットワークの良さを、男たちが力強くリードしたいところですね。

「仕事を見せる」に尽きる男のプレゼンテーション

昆　そんな女性を農家の若者が捕まえるとしたら…

いつか　女性を惚れさせるには、金も力も必要ない。男は「仕事を見せること」に尽きる。それが、最高のプレゼンテーション。例えば、すし職人が最高のすしを作って出せば、思いは伝わる。さっきのＴＶの話ですが、お肌に良さそうなこのナガイモを作っている人に是非会いたいと思わせられたら、それは最高にかっこいいと思われていることではないかしら。要は心のキメ所。それをしない人は来年の今日会っても今と同じ。決めない人はいつまでも決めない。みなさんのまわりにもいらっしゃいますよね（笑）。

昆　いつかさんの本の話を聞きたいのですが、今回のインタビューのタイトルは、５冊目の貴女の本のタイトル「ゼッタイ、必ず、大丈夫！」（経済界２００５年４月）を使わせていただこうと思ってる。こういう台詞、僕も好きなんです。しかし、この「ゼッタイ…」は若い女性向けの恋愛本。「幸せをつかむ心のキメ方58」とタイトルには出ているけど、その一節１００字前後の文章は、若い女性への恋愛指南の形をとりながらも、恋愛本の枠を越えた優れた警

句になっていて、さすがですね。

いつか　ありがとうございます。実は、賛否両論だったのですが、ワカル人にはわかる本だと自負しております（笑）。実際、教職者や聖職者の方々からオモシロカッタと言われました。でも、きっとよくなると思う、ポジティブであり続けることは大事なことですものね。

昆　そもそも、デビュー作の「別れたほうがイイ男　手放してはいけないイイ男」（ＰＨＰ研究所２００３年2月）がいきなりベストセラー入り。その後、女性向恋愛本スタイルの本を中心に1年間で5冊も出されている。凄い馬力ですね。

いつか　女性なので馬力という表現はあまり使いたくありませんが（笑）お陰さまでデビュー作が売れたので次々と依頼が舞い込んだ結果と言えるでしょう。

昆　そして、昨年出された「成功する男はみな、非情である。」（ＰＨＰ研究所２００５年４月）がまたビジネス書としてベストセラーになった。そのタイトルに抵抗感を感じる人もいるかもしれない。でも、非情でないが故に社員や人々を傷付けている、なんてことを思い当たる経営者も沢山いるはず。

いつか　「僕は非情になれないなぁ」と優しく笑う人の良い経営者の方が、私のまわりには多いです。たまに講演会などで「僕はこの本の通り８割非情です」という方もおられますが、表向きはニコニコ接しても、あまり個人的におつきあいしたくはないですね（笑）。最も上手でダンディスムを感じたのは「成功する男ほど情けがある」と、教えてくれたある情報会社のオーナーでしょう。その方はスタンフォード大学卒のエリートでしたが、私の本を気に入って下さり、講演会にも呼んでいただき、光栄でした。

昆　うちの読者にも期待してください（笑）。

いつか　よろしくお願い申し上げます（笑）。

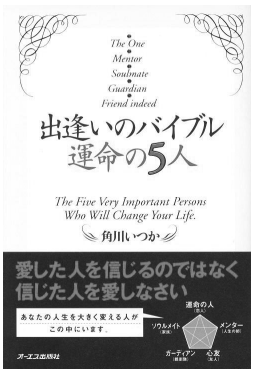




成功する男はみな、非情である
2005年　PHP研究所



ゼッタイ、必ず、大丈夫！
幸せをつかむ心のキメ方58
2004年　経済界



出逢いのバイブル
運命の5人
2003年　インデックス・コミュニケーションズ



温泉風水
ゆったり・のんびり開運旅行
2003年　光文社/知恵の森文庫



男を上げるとびっきりのイイ女
男を下げるとんでもナイ女
2003年　ぶんか社



別れたほうがイイ男
手放してはいけないイイ男
2003年　PHP研究所